

根本正美様

あけましておめでとう存じます。本年もよろしくお願ひ致します。
皆様お揃いでよいお年をお迎えの事とお慶び申し上げます。
昨年「肌荒れ問題」や「カラーのジアミン問題」につきま
しのご質問をお受けし。お答えが遅くなり申し訳ござ
いませんでした。

私達の業会でも同じ質問やトラブルが多くなっており。
特に石油由来の商品が売られた頃から、皮膚のかぶれ。
やアトピー様皮膚炎など。相談が増えておりました。
界面活性剤、虫媒はやはりセンセ-ショ-なもので、油と水
が完全にまざる? 信じられない!! と感じたことと思ひます。
それから毒性がわかるまで、お分多くの商品開発が進んだと
思います。その中で最も悪いものは石油系の合成界面活性
剤であるのはご存知の通りですが、

- ・角質層の破かい = 肌バリアをこわす。
- ・肌の表面の角質層をこわす。

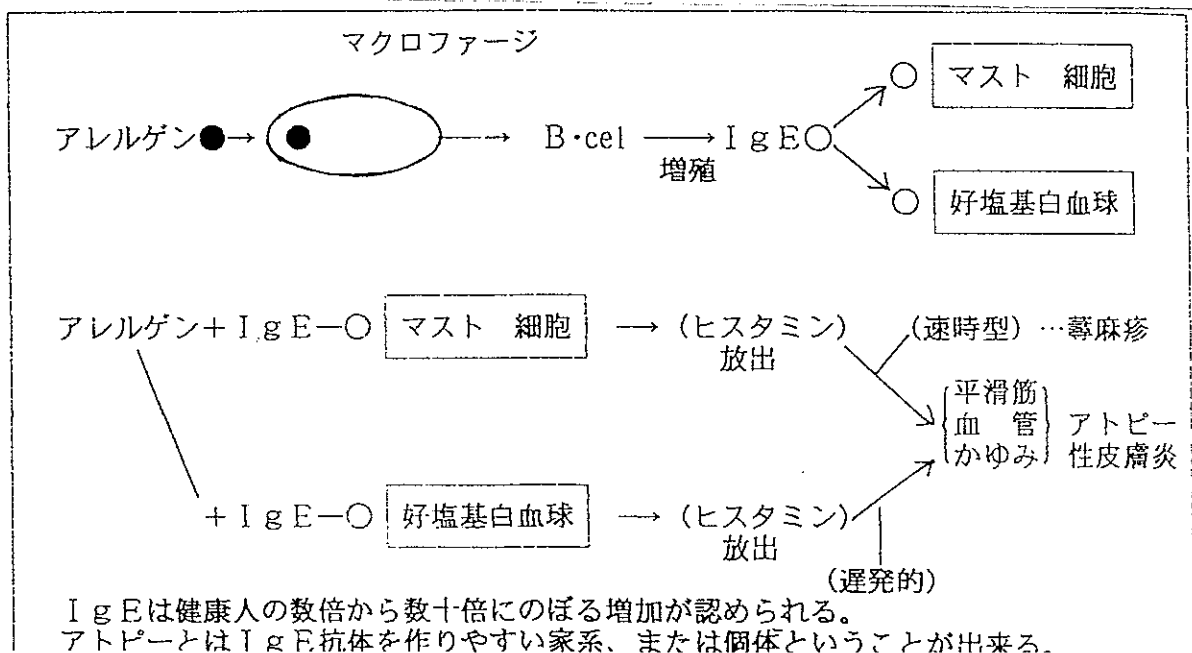
肌バリア機能がこわれると

- ・水分が蒸発してこぼれて肌がかさかさになる
- ・神経がむき出しになりヒリヒリする。
- ・角質がホロホロ落ちて肌のリキアがあらくなる。

などの症状が起ります。

界面活性剤は水で流れてしまうのであまり残らないが
 (表面のものは) 合成のものは非常に流れにくく、のこり多い。
 肌から吸収されたり、残った界面活性剤は、こわれた
 表皮バリアから体内に入り、将来がんを引き起こす可能性
 があると云われています。

アレルギー性皮膚炎には、アレルギー性皮膚炎の免疫学を知っておく事が大切です。下記に加えました。



それはアレルギーマーチの図が示す様に、親からもらう
素因に加え、食べ物のかたまりや、空気中の汚染物質
の吸入などにより抗体を増加させ、感作しやすい体
質を作ってしまう。

その不素な体質を持った人がカラー剤 ジアミンの様な
な、抗体を作り易い物質を使用した場合、最初は
かぶれを起しただけで、体に抗体を作ってしまう。
次回は抗原抗体反応を起し、ひどいかぶれ（
ひどい場合は、アナフィラキシーショックから重篤な場合は
死に至る）を起し医療のお世話にならなくてはなり
ません。一度かぶれた人は、二度と使用して
はなりません。

体質的背景については、別表をご参考下さいませ。

アレルギー性の病気の発症年齢の表もご参考になれば
と思ひ添付いたしました。この表からアレルギー抗体の数が
増えていることがわかります。